

α世代がえがく未来は？

新技術でよりよい社会に

産業総合大学の小々馬教授は、2011年からα世代に関する調査研究をしていて、去年11月、研究発表会を開きました。

α世代は成長している途中ですが、その考え方を知らず、研究は「ミライ・スケット3030」という試みをしました。けんま国際アカデミー初等部(群馬県太田市)の6年生7人に協力してもら

い、「2030年にくらべてい未来の家」を考えました。小々馬は去年8月、未来の生活を研究している会社の人に話を聞きました。10月、A・Bの2チームに分かれ、大手生と案をまわしました。

Aチームは、残りのがわかって食品ロスを減らせる冷蔵庫を考えました。メタバースの世界で遊んだり、体験できるバーチャルネットショップ

「リンクをしたりする」も考えてみました。

Bチームは、家自体がドローンのように飛べ、災害時には安全な場所につれるようしました。中には無重力エレベーターがあり、待たず

ESDに高い関心

「α世代は成長している途中ですが、その考え方を知らず、研究は「ミライ・スケット3030」という試みをしました。けんま国際アカデミー初等部(群馬県太田市)の6年生7人に協力してもら

α世代

1990年代半ば以降生まれを指す「Z世代」の次の世代。アルファベットはZの後の文字なので、ギリシャ文字の最初のαを使っています。

【小々馬教授が考えるα世代の特徴】

- 新しい技術を受け入れて楽しむ
- 顕著なミレニアル世代の影響を受ける
- たくさんの情報に囲まれていて、興味が多様
- 自分のことだけでなく、世の中をよくしたい



キッチンにはロボットや食品ロスを削減できる冷蔵庫があります

小学生が考えた未来の家の案



「未来の家」を考えた小学生たち



ドローンのように飛んで、無重力エレベーターで空を飛行する家

イラストはどちらともくまもと県立大学小々馬研究室 イラストは小々馬

に、けがをする心配もなく移動できます。

参加した小学生の専らからは「だれもが安全で、高齢者も楽に使えるものが大切。北極圏までいける人も健康状態がわかる家のありました。データを自分で管理する『シリウス』(自己回復力)がある点もα世代の特徴では」と話しています。

「α世代は成長している途中ですが、その考え方を知らず、研究は「ミライ・スケット3030」という試みをしました。けんま国際アカデミー初等部(群馬県太田市)の6年生7人に協力してもら